

受験番号	番
------	---

平成30年度

精道三川台高等学校 特別入学試験問題

国 語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は中にはさんであります。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、受験番号を問題冊子および解答用紙の受験番号欄に記入しなさい。
- 4 問題は \square ～ \square で、1ページから11ページまであります。
- 5 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 「やめ」の合図で、鉛筆を置きなさい。
- 7 試験終了後は、問題冊子および解答用紙を机の上に置いたまま退出しなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

伊作は貧しい村で母、妹、弟と生活している。伊作は、よその地で働いているため不在である父の代わりに、漁をして家族を養わなければならないのだが、漁がうまくいかずさんまを一尾もとれないでいた。

手を海水からあげ、顔を荒々しくこすった。①容易ではない漁法であることをあらためて感じた。と同時に、さんまを手づかみすることが、すぐにできるはずはないのだ、とも思った。昨年は※₁蓆むしろの下にさんまがくるとさえほとんどなかったのに、指の周辺をさんまが群がっただけでも上出来だ、と自らを慰めた。

海上に目を向けると、しばしばさんまをつかみ、舟底に落としている漁師たちの姿が見える。小雨が降りはじめていた。

かれは、再び縄をのばして蓆を流した。そして、頃合いを見はからって縄を手繰ったが、蓆の下にさんまの姿はなかった。

しばらくすると海上が薄暗くなり、舟が引き返しはじめた。伊作も蓆を引き上げ、※₂櫓こをつかんで、かれらの後を追った。先行する舟にならって※₃岩礁がんしょうの間をすりぬけ、浜で焚たかれた火を目標に進んだ。すでに暮色は濃く、焚火たきびの近くに立つ人の姿が赤々とみえた。

舟を波打ちぎわにつけ、近づいてきた母と浜に引き上げた。舟底に視線を走らせた母は、黙ったままだった。

その夜、かれは太吉を訪れた。家の中には、さんまを焼いた煙と匂いが残っていた。

「一尾もとれなかった」

伊作が床の端に腰をおろして息をつくように言うと、炬ばたに坐っていた太吉が、かすかに笑った。

「流した蓆の下にさんまが入ったかどうかは、どうしてわかる」

伊作はたずねた。

「勘だ。長い間の……。海の色がわずかに変わる。水が動きもする」

太吉は答えた。

伊作は、口をつぐんだ。

大吉が、串焼きにしたさんまを手にして立ってくると、

「食べ」と、言った。

②伊作は頭を激しく振って立ち上がると、無言で家の外に出た。

時化しげの日のをのぞいて、かれは漁師たちと舟を出した。さんまの③カイユウは本格的になり、漁獲量は日を追って増していた。佐平も父に教えこまれていたらしく、必ずと言っていいほど十数尾のさんまをあげていた。他の漁師の舟は、いずれも舟底がさんまでおおわれていた。

伊作は、一尾もとれずに浜にもどることが恥ずかしかった。A母は漁についてはいつさい口にせず、薄めた雑炊ぞうじを作って弟と妹に食べさせていた。かれは、さんまをかれらに食べさせられぬことが苦痛だった。

漁がはじまってから半月ほどたった頃、流した蓆の近くの海面にかすかな水しぶきがあがるのを眼にした。なんとなく海の色も、その部分だけがちがっているように感じられた。錯覚か、と思った。海面はゆるやかに上下しているだけで、変化はみられない。魚影が自分に確かめられるはずはなかった。

かれは、縄をつかむとおもむろに引きはじめた。さんまがいなくても、もともとだ、と思った。蓆が近づき、舟べりに浮かんだ蓆と並んだ。縄をつなぎとめ、ひそかに舟べりの蓆の下をのぞきこんだ。

銀色のものが走り、乱れ合っているのがみえる。③体が、熱くなった。錯覚ではなく、※₄二十間けんはなれた海面に魚影を見出すことができたのだ。他の漁師たちには容易なことに違いないのだろうが、伊作には初めての経験だった。

かれは、手をのばすと蓆の間から徐々に海水の中に入れ、指を開いてひらめかすように動かすはじめた。さんまが近づき、体をふれさせてかすめ過ぎる。蓆の下には、かなりの数のさんまが群れていた。脂ののったさんまで、体の形も色も美しい。小さな眼が光っていた。指の間をさんまがしばしば通るようになった。

かれは、一尾のさんまが指の間で④テイシするのを見た。指を勢いよく閉じ、頭部をつかんだ。手を引き上げた。体をはねさせたさんまが、西日を⑤アびて光った。眼に、涙があふれた。炉ばたで雑炊をすする弟や妹にさんまをたべさせられると思うと、喜びが体にみちた。

かれは、さんまを舟底に置くと再び蓆の穴に手をつき入れた。

その夜、母は一尾のさんまを四等分し、串にさして炉の火にかざした。

かすかに煙が立ちのぼり、にじみ出た脂が火に落ちる度に炎があがる。弟と妹は、眼をかがやかせてさんまを見つめていた。

^B母が頭の部分を突き刺した串をかれに渡し、他の三本を弟妹に分けた。伊作は、頭を渡してくれた母が、自分を家の働き手として認めてくれているのを感じた。

熱いさんまは、うまかった。肉を食べつくして骨をしゃぶっている弟や妹の姿に、今後必ずさんまを家に持ち帰らねばならぬ、と思った。

(「破船」 吉村昭)

※₁ 蓆：わらを編んで作った敷物。

※₂ 櫓：舟をこぐための道具。

※₃ 岩礁：水面下に隠れている岩。

※₄ 二十間：「間」は長さの単位。一間は約一・八メートル。

問一 Ⅱ線部(ア) (ウ) のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 Ⅰ線部①「容易ではない漁法」の説明として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 舟から離れたところに蓆を流し、時々海にもぐってさんまを確認して素手でつかむという漁法。
- イ 海に蓆を敷きつめ、海辺の焚き火を明かりにしながらさんまを探して素手でつかむという漁法。
- ウ 海面に蓆を流し、蓆の下にさんまが集まったらその蓆をたぐり寄せて素手でつかむという漁法。
- エ 舟と舟の間に蓆を流し、他の漁師と協力しながらさんまを追いつめて素手でつかむという漁法。

問三 (線部 a 「すでに」の品詞名として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 接続詞
- イ 副詞
- ウ 連体詞
- エ 形容動詞

問四 ―線部②「伊作は頭を激しく振って立ち上がると、無言で家の外に出た」とありますが、この時の伊作の心情を説明したものと
として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分を少し見下している太吉に対する怒りと、さんまを差し出してくれた太吉の思いやりに対する感謝の思いが
混在している。

イ 太吉のやさしさに言葉が出ないほど感謝しているが、のどから手が出るほどほしいさんまを持って帰れないことを悔しく
思っている。

ウ 自分だけがさんまをとることができない状況を嘆きつつも、次の漁こそは太吉が教えてくれた漁法で魚をとろうと決心し
ている。

エ 自分ひとりさんまを食べるわけにはいかないと思い、妹や弟にさんまを食べさせることができない自分に腹立たしさを
感じている。

問五 ―線部③「体が熱くなった」とありますが、この時の伊作の心情を五十字以内で説明しなさい。

問六 ―線部A「母は漁については…食べさせていた」、B「母が頭の部分を…弟妹に分けた」には、それぞれのどのような母親の姿が
描かれていますか。「Aは…に対して、Bは…が描かれている」という形で説明しなさい。

問七 この文章の特徴について説明したものととして、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 伊作と太吉の会話の中では、方言を多用することによって太吉のぶっきらぼうな性格と伊作の控えめな性格が対比されて
いる。

イ 弟や妹がさんまを食べる場面では、さんまが焼けるのを待ち遠しく思っている様子が、擬人法を用いて表現されている。
ウ 伊作がさんま漁に成功する様子を描いた部分では、短い文を連続させ、文末を現在形することによって読者に臨場感を与
えている。

エ 「時化」「魚影」などの漁に関連する専門用語を登場させることによって、伊作の村で行われている漁の特殊性が強調され
ている。

問八 次の会話は、この文章についてクラスの中で意見交換した時の会話です。それぞれの会話を読み、本文の内容と合致しない会話を一つ取り上げ、①誰の、②どのような発言が、③本文のどのような点と合致しないのか、説明しなさい。

ゆうた 『伊作が、弟や妹のためにさんまをとろうとがんばっている姿は立派だと思うな。』

だいき 『僕もそう思うよ。家族の食べるものを確保するというのは、働く目的の一つと言えるだろうね。』

かずや 『伊作は、家族を自分を守るんだっていう責任を一人で背負っていたように感じるな。』

あきと 『だから何度失敗しても、誰にも頼らずさんまの漁法を一人で考えていたのかもしれないね。』

こうじ 『一人といえば、舟には伊作一人しか乗っていなかったみたいだね。』

ゆうた 『一人で舟をこぐだけでもたいへんなのに、さんまを素手でつかむなんて想像できないよ。』

だいき 『しかも漁は夜明け前にやっていたみたいだね。薄暗い中、一人で海にいるなんてぼくには耐えられないよ。』

かずや 『海辺では、漁に出ている人の家族や村の人たちが、火を焚いて待っていたんだろうね。』

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「スローリーディング」とは、一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆっくりと読むことである。① カンショウの手間を惜しまず、その手間にこそ、読書の楽しみを見出す。スローリーディングをする読者を、私たちは、「スローリーダー」と呼ぶことにしよう。速読とは、「明日のための読書」である。翌日の会議のために速読術で大量の資料を読みこなし、今日の話題のために、慌ただしい朝の時間に新聞をざっと斜め読みする。それに対して、スローリーディングは、「五年後、一〇年後のための読書」である。それは、今日、明日という即効性があるわけではないが、長い目で見たときに、間違いなくその人に人間的な厚みを与え、本当に自分の身についた教養を授けてくれるだろう。今やネット検索の時代である。単なる物知りであることには何の意味もなくなった。およその意味を知りたいだけなら、誰もがその語句を検索してみるだろう。しかし、それ以上の理解は、^{※1}ネットの検索だけでは不十分である。スローリーダーの出現は、情報化社会において、猛スピードで交換されている表面的な知識を^{おきな}補うという意味で、反動どころか、いわば^②現代の必然なのである。

読書の面白さの一つは、読んだ本について、他の人とコミュニケーションが取れるということだ。相手がその本を読んでいないときには、是非にと^{ゼヒ}推薦する楽しみがある。自分の感動したものについて、それを誰かに教え、その人にも同じ感動を味わってもらいたいという気持ちを抱く人は多いだろう。また、すでに読んだという人と、感想を語り合うということも、もちろん楽しいことだ。見ず知らずの人とでも、同じ本を読んでいたというだけで、仲良くなれることもある。同じ感想を抱いていれば、それで大いに盛り上がるだろうし、違っているならどう違うのかを話し合うことで、自分の考えの幅を広げることができるだろう。

黙読の習慣が広く一般化したのは、近代になってからだと言われている。十九世紀のヨーロッパ絵画の中には、読書する女性の姿がしばしば見受けられるが、そんなふうな家で一人で女の人が本を読んでいる姿が、当時としては新鮮だったのである。現代では、読書は完全に^{※2}プライベートな趣味となったが、しかし、読書という行為は読み終わった時点で終わりというのではない。ある意味で、^③読書は、読み終わったときにこそ本当に始まる。ページを捲^{めく}りながら、自分なりに考え、感じたことを、これからの生活にどう生かしていくか——読書という体験は、そこで初めて意味を持つてくるのである。

^③速読は、読書を読み終わった時点で終わらせてしまう読み方である。しかし、スローリーディングは、読書を読後に生かすため

の読み方である。ザツと目を通したという程度では、人と語り合う際にも(ウ)曖昧で、どことなく自信なさそうな語り口となつてしまふ。相手に話をふられても、「うん、ちゃんと読んでないんだけど……」だとか、「細かいところは、覚えてないんだけど……」などと、不本意な言い訳をしなければならなかったという経験は誰にでもあるのではないだろうか。

見方を変えれば、読書は、コミュニケーションのための(エ)ジュンビである。自分の考えをうまく人に伝えられないと悩む人は多いが、いきなり人前に出て、考えてもみなかつた事態に対して、何か意見を言ってくれと言われても、難しいのは当然である。読書は、そうした現実にそなえて、様々な状況をAに体験させてくれる。そして、スローリーディングを通じて、そうした中で、自分だったら、どう感じどう行動するかをじっくりと時間をかけて考えておけば、思いがけない事態に直面したときにも、気負わず、ふだん考えている通りのことを言えばいいのである。

一冊の本を読むという体験は、誰にとつても同じものではない。Bにならず、まずは作者の意図を正確に理解し、その上で、自分なりの考えをしっかりと巡らせることができれば、読書はその人だけの個性的な体験となる。スローリーディングは、個性的な読書のために不可欠な技術である。

(「本の読み方 スローリーディングの実践」平野啓一郎)

※₁ネット…「インターネット」の略。

※₂プライベート…個人的。私的。

問一 Ⅱ線部(ア)、(エ)のカタカナは漢字に直し、(イ)、(ウ)の漢字はひらがなで読みを答えなさい。

問二 Ⅰ線部①について、スローリーダーの出現が「現代の必然」であるのはなぜか。その理由を文章中の言葉を使って、七十五字以内で説明しなさい。

問三 Ⅰ線部②について、なぜこのように言えるのか。その理由を示している一文の最初の五文字を答えなさい。

問四 ー線部③について、筆者は速読をこのようにとらえているが、これと同じとらえ方で、読書としての速読を表現している別の部分を、ここより前の文章中から十字以内で抜き出しなさい。

問五 本文中の **A**、**B** に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 規則的 イ 独善的 ウ 直接的 エ 画的 オ 仮想的

問六 筆者は、「スロリーディング」という読み方は、どのような価値を持っていると述べているか。本文の前半、後半にある表現を用いて、八十字以内で答えなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、^{※1}甲斐国かいのくにに館たちの侍なりける者の、夕暮に館を出でて、家さまに行ける道に、狐の^①逢あひたりけるを追おひ懸かけて、^②引目いんもくして射ければ、狐の腰に射当ててけり。狐、射転ばかされて、^{※2}鳴き侘わびて、腰を引きつつ草に入りけり。この男、引目を取りて行くほどに、この狐、腰を引きて先に立ちて行くに、また射んとすれば^③失うせにけり。

家、今^{※3}四五町かとして、見えて行くほどに、^④この狐二町ばかり先立ちて、火を^{※4}銜くわえて走りければ、「火を銜えて走るはいかなる事ぞ」とて、馬をも走らせけれども、家の^{※5}許もとに走り寄りて、人になりて、火を放けてけり。「人の^⑤つくるにこそありけれ」とて、矢を^{※6}矧はげて走らせけれども、つけ果はてければ、狐になりて、草の中に走り入りて失せにけり。さて家焼けにけり。^⑥かかる物も忽たちまちちに響しやうを報むかふなり。これを聞きてかやうの物をば構かまへて打うつまじきなり。

〔宇治拾遺物語〕

※1 甲斐国：今の山梨県あたり

※2 鳴き侘わびて：鳴きながら

※3 四五町：一町は約一〇九メートル

※4 銜くわえて：口にくわえること

※5 許もと：近く

※6 矧はぐ：矢をはぐ

問一 —線部①「逢ひたりけるを追ひ懸けて」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二 —線部②「引目して射ければ」とありますが、動作をしたもの（主語）を答えなさい。

問三 —線部③「失せにけり。」の意味を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いなくなってしまった。 イ 死んでしまった。

ウ 悲しくなってしまった。 エ なくしてしまった。

問四 —線部④「この狐二町ばかり先立ちて、火を銜えて走りければ、」について、この後に狐がとった行動を簡潔に答えなさい。

問五 —線部⑤「つくる」の意味を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

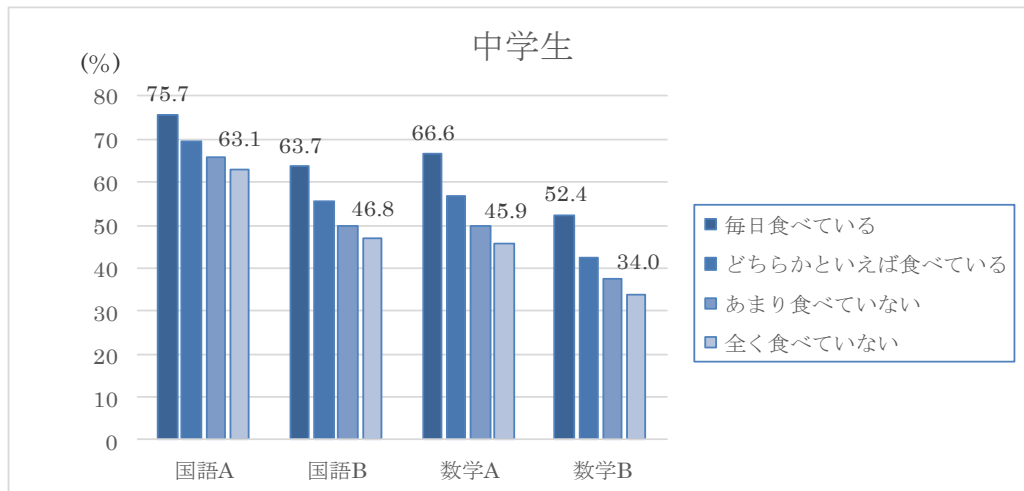
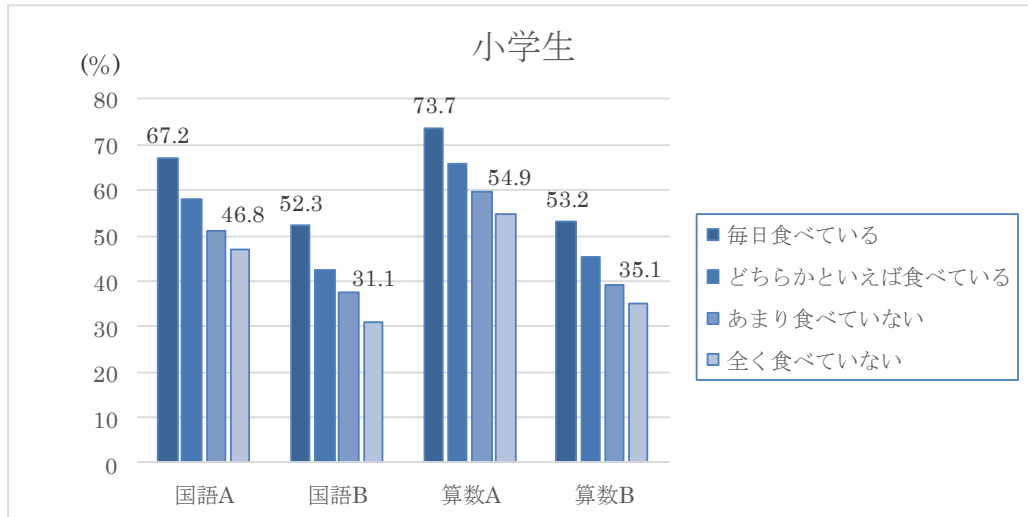
ア 家をつくる イ 晩御飯をつくる ウ あとをつける エ 火をつける

問六 —線部⑥「かかる物ゝ打つまじきなり。」について、

(1) 「かかる物」が指す言葉を、本文中の言葉で答えなさい。

(2) この表現から、筆者がさとしたことを、簡潔に答えなさい。

朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係



文部科学省:平成20年度全国学力・学習状況調査(A:基礎問題、B:応用問題)

調査対象:小学校6年生約116万人、中学校3年生約108万人

問一 このグラフから読み取れることを、六十字以内で答えなさい。

問二 読み取ったことをもとに、あなたが考える、よりよい中学生の生活習慣を、八十字以内で答えなさい。

(注意) 1 原稿用紙の正しい使い方に従い、指定の字数で書くこと。

2 句読点、かっこなどは、それぞれ一字分あてること。

※ 下書き用

問一			

問二			

国語

解答用紙

受験番号

姓

平 30 高 (1)

一

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八
(ア)							③ ② ①
(イ)							
(ウ)							
びて							

二

問一	問二	問三	問四	問五	問六
(ア)				A	
(イ)					
(ウ)				B	
(エ)					

三

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
					(1)	(2)

四

問一	問二

国語

解答用紙

受験番号

聯

平 30 高 (1)

一

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八
(ア)	ウ	イ	エ	さ ま 漁 に 対 す る 自 信 を す っ か り な く し て い	て た さ の に 、 漁 に 対 す る 自 信 を す っ か り な く し て い	ウ	③ ② ①
回遊	停止	浴びて			Aは伊作を信頼して待っている姿が描かれているのに対して、Bはさんまを取ってきた伊作を一人前の男として認めている姿が描かれている。		a 誰にも頼らずさんまの漁法を一人で考えていたのかもしれない b 漁は夜明け前にやっていたみたいだ c 海上が薄暗くなって引き返している点(さんまが西日を浴びて光っている点。)

二

問一	問二	問三	問四	問五	問六
(ア)	情 報 化 社 会 の 現 代 は 、 お よ そ の 意 味 を 知 り	ペ ー ジ を 捲 く と の た め に 、 検 索 で だ が 、 そ れ	明 日 の た め の 読 書	A オ の イ	を 、 巡 読 書 を し な が ら 自 分 な り の 考 え を し っ か り と
鑑賞	すいせん	あいまい	準備		

三

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
あ い た り け る を お い か け て	館 の 侍 な り け る 者	ア	人 に な っ て 、 家 に 火 を つ け た。	エ	狐	(エ) 狐 の よ う な た ち ま ち 仇 を 返 す よ う な も の を 懲 ら し め て は い け な い。

四

問一	問二
食 べ る 小 学 生 、 中 学 生 ど ち ら も 毎 日 朝 ご 飯 を 食 べ	と ご 飯 を こ こ の こ い な い 徒 最 も 平 均 正 答 率 高 く 、 全 く